

佛神感應錄卷第十一 後集

一 金剛經讀誦ノ士。七日前ヨリ往生ノ告ヲ蒙事

附タリ趙文昌等種々ノ靈驗ヲ引事

附タリ金剛經ヲ讀誦シテ壽命ヲ延例ヲ引事

二 法華讀誦ノ禪尼舍利ヲ感得スル事

附タリ法華種々ノ功德ノ事

三 甚深回向經ノ功德緣起ノ事

附タリ惡夢見シ時ノ咒ノ事

四 華嚴經善知識ノ名ノ功德ノ事

附タリ惡夢見シ時ノ咒ノ事

五 華嚴經二種々アル事

附タリ經文ヲ畧シ。引。重テ守夜神ヲ明断事

六 金光明最勝王經ヲ改板行シテ。簞星ヲ除事

附タリ本朝流布因縁ノ事

佛神感應錄卷第十一 後集

一 金剛經讀誦ノ士七日前ヨリ往生ノ告ヲ蒙事

撰州尼ヶ崎ニ伊藤氏ノ豪士アリ。在俗ノ頃ヨリ。金剛經ヲ讀誦セラレケリ。仕宦ノ隙々ニヨコタラス。勤ラレケルガ。老年ノ後隱居シテ。禪門トナリ。心マヽニ讀誦ノ功ヲ積レケル程ニ。ステニ一萬七千部ニ及リ。アル

トキゴス  
時午睡セラレケル夢ニ。衣冠ヲ正シタル官人來ニ云。ソノ方ハ久金剛  
經讀ヌル功德ニヨツテ。今ヨリ七日ニアタツテ。浄土ヘ往生スベシト。  
トキ  
時ニユメ心ニ對テ云。我本浄土ニ生ズルコトヲ願ズ。イカンゾ往生スト  
云ヤ。官人ノ云。子浄土ヲ願ズトイヘトモ。浄業スデニ成ズレバ。理  
トシテ

「①02ウ

浄土ニ生ズベキナリ。禪門ノ云。浄土トノ玉フハ。イカヤナルトコロニ  
テ候ヤ。官人ノ云。恰觀經ノ所說ノゴトシ。禪門ノ云。君ハタレトカ  
スル。官人ノ云。我ハコレ般若ノ守護神ナリト云。去トミテユメサメタリ。  
禪門不思議ノ告。シカモ分明ナリケレバ。心知ノモノニハ。ヒソカニ語テ。  
ソノ日ヲ待ケルガ。ユメノ告ニ少モタガハズ。七日アツテ安祥トシテヲ  
ハラレケリ。無下ニチカキコトナリ。按ズルニ觀經ニ讀誦大乘ヲモツテ。  
上品上生トスルナレバ。大乘般若ヲ讀誦スル人。理トシテ生ズルユエン  
ナリ。蓋コノ守護神ト云ハ。梵天カ。帝釈カ。將十六善神ノ隨一ナルニヤ。  
抑又八金剛カ。四菩薩ノ中ナルニヤ。イマダハカルベカラズ我神ヲミズ  
トイヘ

「①02ウ

トモ。神能我ヲ見。太平廣記ニノス。隋ノ趙文昌ハ。ツネニ金剛經ヲ  
讀誦ス。アル時不圖死シテ閻魔ノ廳ニ趣。閻王問テ云。子一生イカナル  
福業ヲカナス。文昌答テ云。家貧シテ。功德ヲイトナム力ナシ。只專  
金剛經ヲヨムト。閻王コレヲキイテ。合掌シ首ヲ低テ。讚嘆シテ曰。善  
哉。汝スデニ般若ヲ持ス。功德甚大ナリト云々。文昌甦テ。コノ事  
ヲ語。コレ閻魔天トイヘトモ。コノ經ヲ敬重シ玉フコト。カクノゴトシ。  
何ニ況般若守護ノ神ヲヤ。且記スラク。文昌冥途ニテ。周ノ武帝ノ三重  
ノホダシヲ蒙。ヲハスヲミル。文昌ヲ呼ニ云。汝家ニ帰。隋ノ皇帝ニ  
向說ベシ。我諸ノ罪ヲハラントス。唯佛法ヲ滅シ。ツミ重シテ免

コトヲ得ズ。望ハ我

①03オ

タメニ。功德ヲイトナミ玉へ。冀ハ地獄ヲハナル、コトヲ得ント。文昌蕪テコノコトヲ隋ノ帝ニ奏聞ス帝天下ニ詔シテ。口錢ヲイダサシメ。周ノ武帝ノタメニ。大供養ヲ設コト三日。乃金剛般若ヲ讀シムトイヘリ。又淨土晨鐘ニノス。唐ノ淨眞尼ハ。金剛經ヲ誦スルコト。十萬遍。志ヲ厚念佛ス。弟子ニ語ニ云。五月ノ中十たび佛ヲミタテマツリ。兩度宝蓮華ノ上ニ。童子ノ遊戲スルヲ見ヌ。我スデニ上品ノ往生ヲ得ント。言訖。結跏趺坐シテ逝ヌ瑞光菴ニ滿トイヘリ。コレスナハチ讀誦大乘ノ行者。シカモ念佛ヲアヒ兼テ。上品ニ往生スルナリ。或人ノ云。智度論ニ福德ハ牛ノゴトク。願ハ御者ノゴトシトイヘリ。故ニ願行具足スルヲモツテ。所思ノ処ニ

①03ウ

イタルコト。古德ツブサニコレヲ弁ズ。然ニ伊藤氏本淨土往生ノ願ナシ。イカンゾ淨土ニ生ズトスルヤ。通ジテ云。ソレ人地獄ヲ願モノナシトイヘトモ。地獄ノ業ヲナストキハ。任運ニ地獄ニツルガコトシ。觀經ニ。スデニ讀誦大乘ヲモツテ。上品上生ノ業トス。今ソノ業ヲナセリ。タトヒ願ナシト云トモアニ淨土ニ生ゼザランヤ。タトヘバ路ニ熟セル牛ノ。御者ナケレトモ。直ニヒトリ家ニ帰ガゴトシ。故ニ官人云。理トシテ淨土ニ生ズベシト。亦宜ナラズヤ。然トモ。願行具足スルヲ。圓滿トイツ、ベシ。又異朝ニハ。善男女等。金剛經ヲ讀誦シ。殃ヲ免。壽ヲ延。乃至菩提ノ資糧トシ。般若ノ舟航トスルモノヲホシ。具ニハ持驗記復新異録

①04オ

往生セルコトヲシルセリ。又コノ經不可思議ノ功德アツテ。業ヲ轉ジ齡ヲ延コト。諸書往々ニシルストコロノゴトシ。ユヘニ閻摩法王金剛經ヲ冥途ニテハ續命經ト名ヅクトノ玉ヘルコト。靈驗傳ノ中ニノスルガゴトシ。

昔梁ノ元帝ノ朝ニ招提寺ノ琰法師ノ少幼時ニ。相人コレヲミテ云。惜カナコノ童子聰明ナリトイヘトモ。短命ナルベシト。師乃發願シ。山ニ入テ金剛般若ヲ讀誦ス。アル時長一丈アマリモア

①04ウ

ラントミエシ。大ノ法師來。コノ經功德不可思議ナリトイヘリ。ソノ後二十年ヲ經テ。前ノ相人ニアエリ。相人驚ニ云。師イカナル妙藥ヲ服シテカ。シカモ壽命ヲ延コト。カクノゴトキヤト。琰法師ノ云。我金剛經ヲ誦ズルノミト。又本朝淨藏貴所ハ。神人アツテ。命ノ終ノコトヲ告シラシムルニ。乃金剛般若ヲ誦ジテ。延命ヲ祈ニ。俄ニ風ヲ煩テ。数日アツテ痊タリ。コレ乃死スベキ業ヲ轉ジテ。輕病トシテ。受ナリトイヘリ。淨藏傳。金剛經ノ中ニ。種々ノ功德ヲ說玉ヘル上ニ須菩提。要ヲモツテ。コレヲイハバ。コノ經ニ不可思議。不可称量。無邊ノ功德アリ。如來ハ大乘ヲ發スモノ、タメニ。說玉ヒ。最上乘ヲ發モノ、タメニ。說玉ヘリ。若人ア

①05オ

③ 法華讀誦ノ禪尼舍利ヲ感得スル事 附タリ法華種々ノ功德ノ事 東武ニ或禪尼。常ニ法華經ヲ讀誦セラレケリ。又甚深回向經ヲモ。相加

テヨマレケリ。法華スデニ二千部ニ向スル功ノ積ニヤ。アル時讀誦ノウチニ。空ヨリ物ノヲツル音シケリ。ナニ、カトアヤシミルニ。宛轉トシテ。色相妙ナル舍利ニテゾア

①05ウ

リケル。希有ノ思ヲ生ジ。頂禮シテ秘置ヌ。ソノ、チ又アルトキ。讀誦ノ声ノ中ニ。忽然トシテ。空ヨリ舍利ヲチタリ。カクノゴトクナルコト。都三度ナリ。アリガタク思ナガラ。人ノ評ゼンコトヲ憚テ。アラハニ語出サズトイヘリ。ムカシ唐ニテ智儼法師ノ所持ノ經ノ。佛ノ字ヨリ。

三粒ノ舍利 逆イデ、五色ノ光明アリ。經ノ上ニ散滿シ。流行シテ住ズ。ツイニ又佛ノ字ニ歸入玉ヒヌ。衆僧追々ニ走来テ。禮拜シ。悲泣。香ヲ燃。發願シテ。更ニ眞容ヲ觀タテマツラント祈シカバ舍利マタ佛ノ字ノ中ヨリイデテ。流行シテ住ズ。シバラクノアイダニ。餘ノ佛ノ字ノ中ニ没ト云々。コノコト法華弘贊傳ニイヅ。又後魏ノ承陸載ト云人。

①06オ

ニ法華ヲ誦ズルニ。經ノ字光ヲ放テ。頻ニ舍利ヲ感ズルコトヲノセタリ。法華靈驗傳ニイハルハウジュヤリモコレヲ引。所謂法頌舍利ナレバ。法爾トシテ具シタル徳用ノ。信ヲ運功ヲ積力ニ激發セラル、コト。又ナンゾ疑ハシ。若ソレ妙智尼ノ經ノ虚空ノ中ニイテ。化シテ金字トナリ。法雲師コノ經ヲ講ズルニ。天華亂墜スルノタグヒハ。蓋コレ經王ノ不思議ニシテ。亦コレ護法ノ力ナリ。ソノ外法華經ノ感應唐朝藍谷ノ沙門慧詳ノ撰ズルトコロノ弘贊傳十卷。宋朝四明ノ沙門宗曉ノ現應錄四卷。又大明ノ眞淨國師ノ集トコロノ海東傳弘錄四卷等ニイデタリ。又明ノ了圓法師。コノ三書ノ中ヨリ。ソノ最奇ニシテ切ナルモノ。百

①06ウ

七條ヲ抄出シテ。二卷トス。法華靈驗傳ト名ツケテ。世ニ行是ナリ。又本朝元亨釈書ノ中往々ニアツメシルス。又眞際ノ法華傳記卷三元政ノ本

①06ウ

朝傳記卷三ニ采録シヌ。又法花功德物語卷三及法華利益物語卷十二コレハ多ハ四朝高僧傳ノ中ノ法華ノ靈驗ヲ平ガナニ。直タレバ和國ノ利益ニハ遍ワザナレ。ソノ外法華ノコト。事アタラシクシルスニ及ズ。和漢ノ書ニ。贊揚弘通ノ詞ヲツラネタリ。中ニモ本朝和歌ヲモツテ。或ハ大乘一部ノ大意ヲ述。又ハ二十八品別々ノ趣ヲアラハス。畧シテアグルニ積ノ日興人皇百士御門ノ院延徳法華和語記四卷ヲ撰ズ。前ノ博陸候某年中人ナリ。公ノ跋アリ。コレスナハチ法華ノ大意ヲ記。

①07オ

和歌ヲノセタリ。慈鎮和尚法華經ノ令百由旬内。無諸衰患ノ心ヲヨメル

ウレシキハ。花ニ風ナキ吉野山月ハ曇ヌサラシナノ里

コレ法華ノ威神力ニテ。諸ノ災ト障ヲ除ニタトヘタリ。シカレトモ。是ハナヲ對治悉檀ニシテ。假諦門ナリ。若空中ニ約シテ。コレヲ論ズレバ法華ノ甚理ヲ味。頓ノ妙旨ニ達セバ。ナヲ生歟ノ相ダモ見ズ。イカニ況。災ト福トフヤ。タトヘバ日輪ノ前ニ夜ナキガゴトシ。コノ心ヲ慈鎮和尚又ヨメル

吉野山オクニ心ノ住ヌレバ散花モナシサク花モナシ

シカレトモ初修業ノ菩薩。心得アルベキコト。先徳具ニコレヲ弁ズル

①07ウ

ガゴトシチカゴゴロ妙立和尚ノウタニ。妙立ノ歌集一卷世ニ流布ス

梢ナル花ヲ芥トミルマデハ吉野ノ山ニ庵ナムスビソ

コノウタノ心不淨觀ノ旨。又ハ法華安樂行品ノ趣ヲモ含メリ。ヨク味ベシ。又法華譯和鈔五卷。武州星野山實海ノ作ナリ。序ニイハク。

萬葉古今後撰ノウタマデハ。雜部ノウタニテ。釋教ノウタナシ。拾遺千載新古今ナド經文ヲ題トシテ。ヨメルト云々。譯和鈔ノ中ニ法華品々ノ

歌ヲホクノセヌ。未嘗睡眠ト云ル心ヲ遷子内親王ノヨミ玉ヘル

又ル夜ナク法ヲ求人モアルヲ。ユメノ中ニテスグル身ゾウキ

内親王ニテワタラセ玉ヒ。芙蓉帳ノ中ニ。長セ玉ヒツ。絲竹管

①08オ

絃ノ御タノシミノ前ニカク御心ノツキ玉ゾアリガタケレ又法師品ニ法華  
經ノ乃至一句ヲ説人モ。シルベシコノ人ハ。スナハチ如來ノ使ナリト云心  
ヲ。傳教大師ヨミ玉ヘル

コノ法ヲ只ヒトコトモ説人ハ。ヨモノ佛ノ使ナラズヤ

又如來滅度之後。若有レ人間ニ妙法華經乃至一偈一句一念佛隨喜者我  
與ニ授阿耨多羅三藐三菩提一トノ心ヲ。前ノ大僧正實聡ヨメル

イツハリノナキ言ノ葉ノ末ノツユ。後ノ世カケテチギリヨクカナ

明州奉化縣ノ女子。唯青蓮華香白蓮華香。花樹香菓樹香ノ文ヲオボヘテ。

ツネニ吟詠ス。没後埋シトコロニ。青蓮華一朶

ヲ生ズ。香ト色ト愛シツベシトイヘリ。現徳録ニサレバ法華ノ題目ヲ唱コ

トハ。本陀羅尼品ヨリイデタリ。佛告ニ諸羅刹女。善哉々々汝等但

能擁護受持法華一名一者。福不可量云々。天台ハコレヲ略舉ニ

經題。玄收一律一トモ釋シ。記又籤文ニ。畧舉界如。具撰三千トモ

釈シテ。一念三千。一心三觀ノ理。都コノ題目ニコレヲ撰スルコト。タ

トヘバ日本ト云ハ。六十餘劫及山川人畜草木ヲ。含撰ガゴトシ。コレ

スナハチ。日蓮上人ノ私ノ建立ニハアラス。經記ノ文ニヨツテ。發揚シ

宣傳スルナリ。但題目ヲ唱コト。ヒトリ法華ノミニ限ニアラス。觀經ノ

下品上生ノ下ニ。或衆生アツテ。衆ノ惡業ヲ作。方等經典ヲ誹謗

セズトイヘトモ。カクノゴトキノ愚人。多惡法ヲ造テ慙愧アルコトナシ。

①09オ

命終ントスル時ニ。善知識ノ。タメニ大乘十二部經ノ首題ノ名字ヲ説

ニ。カクノゴトキノ諸經ノ名ヲ。聞ヲモツテノユヘニ。千劫極重ノ惡業ヲ

除却スト云々。諸經ノ御名ヲキクダモ。ナヲカクノゴトキノ罪ヲ滅ス。

イカニ況。自ツネニ誦持スルヤ。心ヲトバメテヨク思ベシ

### 甚深回向經ノ功德緣起ノ事

上総ノ國小山邊ノ郡内願成寺ノホトリ。小井戸ト云トコロノ荷澤ト云里

ニ。ソノ心正カラザル女人アリシガ。貞和二年六月朔日ニ。重病ヲ受テ。

同九日ニイタツテ。悶絶躡地シテ。ツイ

ニ氣タエヌ。カクテ同十一月廿三日ノ夜。同郡ノ中。極樂寺ノ郷ノ住ノ

高階氏ノ女。ユメミケルハ。カノ小井土ノ女姓。色ノ黒コトハ。墨ノゴ

トク。髪ハ空ニ生ノボリ。爪ハ一寸バカリニ長シテ。ツカレヲトロヘタル

アリサマ。影ナドノゴトクナリ。一目ミルトヲソロシク。身ノ毛弥立テ。

イツソニグルトコロニカノ亡者追サマニ。ヒシト執テ。泣々口説申ケルハ。

我在生ノ時意。拙シテ僧ヲヲトシ。多ノ子ヲ懷妊ストイヘトモ。人目ヲ

忍テ。一人トシテ取アグルコトナク。或ハ土ニウヅミ。水ニシヅム。コ

ノ罪業深重ナルニヨツテ。苦ヲウクルコトヒマナシ。シカレトモ。我存命

ノ時。或人地藏菩薩ヲ造立シタテマツルトテ。普人

ヲス、ムル時。僅ニ二錢ヲホドコスコトアリキ。其少ノ結縁ノユヘニ。

タバイマ刹那ノ暇ヲ得テ。コ、ニ來リ。仰願ハ法華經一部ト甚深回向經

一卷ヲ書寫シテ我ニ回向シタビ玉ヘ。即時ニコノ苦罪ヲハナレテ。都率

天ニ生ベシト。伏シツミテゾ申シケリ。聞ニ哀ニ。不便ナリト思ナガラ。

法華書寫ヲタノムベキ程ノ布施。サスガニ容易ザレバ。夢中ニモ思惟ノ

心萌ツ。左右ナク領掌ニ及ザルトコロニ。頻ニ取ツイテ強盛ニ責ケレ

①09ウ

バ。ノガルベキヤウナフシテ。法華ヲバ領掌シ又回向經ト云御經ハ。イ  
マダ名ヲダニモキカズイカントシテカ。書シタテマツランニカト云バ。凶  
女申シケルハ。回向經トテ。コノ世ノ

中ニ在コト。是実ナリ。ヨク／＼タツネ玉ヒテ。一卷書寫シテ。我ニ廻  
向シ玉ヘト。涙ニ咽カナシミテ。申ケリ。ソノ時ニ。殊ニアハレニ覺テ。

同領掌シケレバ。カノ灵ミスマス。金色ニ変ジ。天へ上ル髮ハ。宝冠  
トナリ。垢膩踈弊ノアサマシゲナル綴ハ。瓔珞細軟ノイミジキ衣ニ引カエ

テ。光ヲ放ツ。青蓮華ノ上ニ生ズト見テ。サメヌ。ツク／＼ト夢ノ不  
思議ヲ思廻ニ。唯約束バカリニテ。イマダ一字ヲモ書セザルニ。カ、ル

轉身ノ奇特。ユメナガラモ法力ノ不可思議ナルヲ。感嘆シテ。イソギ先回  
向經ヲ尋ニ。誰モ見ズキカズトコトヲ。マコトニ天垂鄙ノスミカナレバ。

カ、ル貴御經モイタラヌニコソト。悶ケルヨリフシ。夢窓國師ノ弟  
子ニ周毫トテアリシカ。藏經ノ中ヲヨクヨク搜ミルベシトテ。遍モトメ

ラレケルガ。同四年正月下旬ノ頃ニ。下総ノ國飯ノ岡ノ律院ヨリ。タ  
ツネイダシテ。書寫シ了又按ズルニ。コノ時ノ藏經。多ハ朝鮮ヨリキタル。ソノ後足利源ノ義滿

タメニ。朝鮮へ遣コト。普隣國宝記ニミヘタリ。今本朝印板ノ明ニハ。マコト  
佛說甚大回向經ハ。景ノ字ノ略ニミヘタリ。三品弟子經ナド七經ト同函。眞ニヲモンミルニ。法

華經ノ功德ハ。更ナリ。コノ御經ノ利益ヲ知タルコトハ。コレアニ亡者ノ  
智分ナランヤ。必大聖ノ加被ヲカウムルナランカヘス。奇特ニアリ

ガタキコトニコソ。茲ニ知又亡者追福ノ由向ニハ。法華經ニ書加テ。手  
向ニ何ナル罪業深重ノ凶者モ。直ニ頓證菩提ヲ得ベシトナリ。余元祿七

年季ノ秋  
ノ比。高野山ニノボリテ。暫滯留セシ時。コノコト法雲律師ノシルシヲ  
キ玉ヘルヲ。寫ヌ。ソノ後江府ニテアル國君ノ母公。某院ト跋アリテ。

右ノ畧縁起ナド。書加テ。コノ甚深回向經ヲ印施アリシヲ。余モ亦一  
卷ウケ得ヌ。或禪師ノ勸ナリシトカ。カノ禪尼ノ法華ニ加讀シハ。コノ

印施ノ經ニコソ。抑コノ回向經ハ華嚴經ノ中ニモ。引用玉ヘバ。勝ケ  
ナラヌ。御經ナルコト知ベシ。ムカシ加州ノ刺史藤原ノ兼澄ノ女。常ニ法

華經ヲヨメリ。病ヲ受テ。忽虚心ナル時ニ。釈迦如来金色ノ光ヲ放玉ヒ。  
袈裟ニテ面ヲ覆。妙音ヲ擧テ告テ曰善女汝法華ヲ轉ズ。ユヘニ汝ヲ

シテ。我身ヲ見セ。我声ヲキカシム。シカレ  
トモ無量義經觀普賢經ヲヨマザレバ。我面ヲシテ。見セシメズ。汝本

土ニ還バ二經ヲ加。益法華ヲ轉ゼヨ。我又面ヲカクサジト云々。カク  
テ蕪テ後。乃開結ノ二經ヲ加。益法華ノ持者タルコト。具ニ釋書ニ

シルスガゴトシ。シカレバスナハチ。法華ニ開結ノ二經ヲ添ヨミテ。教主  
ノ御心ニシタガヒ。又回向經ハワツカナル小經ナレバ。終ニコレヲヨミテ。  
大乘ノ回向ニ擬ベキモノ歟

四 華嚴經善知識ノ名ノ功德ノ事  
往コロ。或僧ノ語ヲラレシハ。昔關東ニ遊學セシ時。友ナル僧夏間クラシ

ノ折フシ。村邑ヲ經過スルニ。ソノワタリノ村々。相  
接牛馬ノ疫行テ。多ハ死殤ス諸良甚コレヲ患テ色々術ヲツクセドモ。

ヤマズコノ僧マノアタリ見聞シテ哀ニ笑止ナルコトニ思ドモ凡スベキ方便  
ヲモ覚ザレバ空スゴシケル処ニアル夜ノ夢ニ誰トハナクバサンバエンテ

イシユヤジント書テ。牛馬ノ守トナザハ。止ベシトイヘリ。目サメテ唱ミ  
ルニ陀羅尼ニ似テダラニアラズ。又ハ人ノ名ニモアラズ都佛神ノ名ニ

モキ、及ネバ。イカナルコトトモ。弁ガタク。先ワスレザルヤウニ。記  
憶シヌ。カクテ日モ漸晏テ端居シタルニ門外ヨリサシノゾクモノアリ。

誰ニカト咎ケレバカノモノ云ヤウ。我ハ。反古ヲ買モノニテ候コレハアル  
処ニテ買トリ候フガミレバ佛井ラシキ繪モコレアレバ無下ニ反古トナサ  
ンモ。 ①18オ

念ナク候ヘバ。御目ニ入タク候ト申セバ。呼入テイカナル書ニカト。手ヲ  
イダセバ。カノモノ古破損シタル書ヲ一卷ワタシヌヨク／＼ミルニ。華  
嚴經五十三ノ善知識ヲ。畫畧シテ華嚴ノ説ヲ摘デ傳記トナシ。一々ノ  
圖ノ中ニ各善財童子カノ知識ニ參スルノ躰相ナリ題号ハ。佛國禪師文殊  
指南圖讚トアリ乃佛國禪師七言八句ノ偈讚アレバナリ。ヒタトクリミルニ。  
善財童子第三十三 詣迦毘羅城 參婆娑婆演底主夜神云々。忽ユメ  
ニミタル名ニ逢ヌルコト。希有ナリト。歎感ノ心ムネニミチケレバ兎角  
ニ及ス。買トリヌ。カクテユメノ告ノゴトクニ。婆娑婆演底守夜神ト書テ。  
守ニ封ジツ。村良ニ遺。試ニ牛馬ノ尾ニ着シムル ①18ウ

ニ。忽健ニナリニタレバ遠近キ、及テ群來テコレヲ受帰病悶牛馬  
ニツクルニ尽愈ズト云コトナシ。人畜ヲモヒヨラサル利益ニ潤テ神驗  
不思議ナリト稱嘆シタリト。カノ友ノ僧具ニ演宣シタルヲキイテ。冥想  
ノ灵應偶然ナラザルコト因縁不可思議コトニモツテ頼敷思ツ、隨喜ノ心  
切ニシテ便ソノ書ヲカリテ。拜讀シ面善知識ニ値遇セル心地シテ殊  
勝ニ未曾有ノ心ヲ生ジヌ。カクテ遍書林ヲ尋ニ。凡持モノナケレバ  
再コノ僧ニ請テ。先タゞ八句ノ偈ノミヲ。寫ヲキタリトテ。余ニミセラ  
レキ。感喜アサカラズシテ。コレヲ吟詠スルニ所謂香肺腑ヲ薰テ花口吻  
ニ生ズルニ似タリ欣然トシテ又コレヲウツシキ又巻ノ首ニ中 ①19オ  
書舎人張商英ノ序アリ余尚イマタ。アキタラズ願ハ圖相及緣起全  
眞本ヲ得ント。ソノ、チ洛陽ニアリシ時廣書肆ヲ閱スルニ名ダニ知人マ  
レナリカクテ年月ヲ歴ケルニアル日偶一書林ニ入。因ニコノ書ノコトヲ

カタルニ肆主ノ云コノ書ハ。旧槓ノ尾平等心院ノ板本ナリ。今世ニ希ナ  
リ故ニ東関洛陽ノ書齋宜ナルカナ書題ヲ知ザルコトヤ。予ガ書棚ニ因縁  
アツテ久コノ書ヲ蓄。シカレトモ寂然トシテ。コノ書ヲタツヌル人少  
ナリ圖ザリキ。今苦ニ搜求玉ハントハイツ、ベシ啐啄同時ナリト。余  
コレヲ得テ。歡喜ニ耐ズ。所謂如闇得燈。如貧得宝ノ想ヲナシテ或ハソ  
ノ圖相ヲ拜觀シ。又ハカノ偈贊ヲ吟詠ス。ソノ縁起及偈ハ ①19ウ

無点ナレバ。吟誦ニ勞スルヲモツテ。漫ニ菲才ヲ顧ミズ。恭訓点ヲ加  
テ。重テ梓行ノ時ヲ俟ノミ。ムカシ宋ノ朱仁聰ト云モノ。來朝シテ。越  
前ノ敦賀ノ津ニ滞留ス時ニ慧心ノ僧都高弟寬印ヲ伴テカレニ相見セン  
トシテ。越州ニ赴玉ヘリ。仁聰イデ、相見ヲリシモ壁間ニ畫像ヲカケタ  
リ。仁聰ガ曰。是ハ婆娑婆演底守夜神ナリ。渡海ノ難ヲ免ンガタメニ。  
帰依スルトコロナリ師コノ神ヲ知ヤ。慧心乃華嚴經ノ中ノ。善財讚嘆ノ  
偈ヲ。憶シテ。筆ヲ援像ノ上ニ題シテ曰。見汝清淨身。相好超世間ト  
因寬印ヲ呼曰。子次ノ句ヲ書セヨト。印筆ヲ把。寫テ曰。如文殊師利。

亦如宝山王。入法界品二十九ニイヅ仁聰ミテ感嘆 ①20オ  
シテ曰。大藏ハ。二師ノ腸胃ナリト云々。具ニ釈書第五巖山又隴西ノ李石ガ  
續博物志ニ段成式ガ云。主夜神ノ咒ハ。惡夢ヲ辟ベシ。曰婆娑婆演底ト。  
コレハ婆娑婆演底帝ヲ陀羅尼トスルニ似タリ。凡名ヲ陀羅尼トスル例。ス  
クナカラズ。タトヘバ弥勒佛摩利支天。大黑天ノタグヒノゴトキ。是ナリ。  
シカレバスナハチ。コノ守夜神ノ名タゞ牛馬ノ厄難ヲ助ノミナラズ或ハ  
風波ノ難ヲマヌカレシメ又ハ惡夢ノ恐ヲ安辟コト世人傳稱スルトコロ  
スデニカクノゴトシアニ信用セザルベケンヤ其悲願法門ノゴトキハ。華  
嚴經ノ所説ノゴトシ。又因ニ夢ミタル時ノ頌ヲシルスニイハク。惡夢着  
草木一吉夢成二宝玉一。案ニ桑ノ木ノモトニ到テ ①20ウ

ソノミルトコロノ夢ヲ談<sup>トイテイハク</sup> 又説<sup>トイテイハク</sup>云南無功德須弥嚴王如来<sup>クドクンニモクニゴクワフ</sup> 已上東<sup>ヒカクシムカフテ</sup>ニ向水<sup>ソノ</sup>ヲ灑<sup>シ</sup>コレヲ誦<sup>シ</sup>スルト云々。 又和歌<sup>ワカ</sup>ヲ詠<sup>ヒ</sup>ズ

唐國<sup>カラクニ</sup>ノソノ、ミタケニ鳴鹿<sup>ナカシカ</sup>モチガヘヲスレバユルサレニケリ

又吉備<sup>キヒ</sup>ノ大臣<sup>ユメチガヘ</sup>ノ夢違<sup>ユメチガヘ</sup>ノ歌トテ清輔<sup>キヨスケ</sup>ノ袋草紙<sup>フクロザウシ</sup>ニモ出<sup>イツ</sup>コレヲ寄<sup>コ</sup>ス。 南無<sup>ナム</sup>福徳増<sup>フクトクゾウ</sup>長須弥<sup>チヤウシユ</sup>功德神<sup>クドクン</sup>變<sup>ベ</sup>王<sup>ワ</sup>如来<sup>ニモクニゴクワフ</sup> 時<sup>トキ</sup>。 誦<sup>シ</sup>ズベシトナリ。 南無<sup>ナム</sup>成就<sup>ジユウ</sup>須弥<sup>シユミ</sup>功德<sup>クドクン</sup>王<sup>ワ</sup>如来<sup>ニモクニゴクワフ</sup> 右<sup>ミダ</sup>ナジヲ

按ズルニ惡夢<sup>アクム</sup>着<sup>キ</sup>草木<sup>ソウボク</sup>ニ吉夢<sup>キクム</sup>成<sup>ナリ</sup>。 宝玉<sup>ホウヨク</sup>ノ二句<sup>ニク</sup>ハ解夢<sup>カイム</sup>靈書<sup>レイショ</sup>ニ見<sup>ミ</sup>ヘタリ。 占<sup>ウラナヒ</sup>ヲシルス又ハ夢<sup>ユメ</sup>字<sup>ジ</sup>全書<sup>ゼンショ</sup>ト。 唐<sup>カラ</sup>本<sup>ホン</sup>ナリ和板<sup>ワイタン</sup>ナシ。 コノ書<sup>ショ</sup>ノ中<sup>ナカ</sup>ニ惡夢<sup>アクム</sup>ヲ禳<sup>ハラフ</sup>ノ呪<sup>マジナヒ</sup>ト。 及符<sup>ヨロヒ</sup>アリ十二<sup>ジュニ</sup>辰<sup>チン</sup>ニアテ、ソノカズ十二<sup>ジュニ</sup>ナリ。 時<sup>トキ</sup>マデ一時<sup>イツジ</sup>々々<sup>ジジ</sup>ノ符<sup>フ</sup>各別<sup>カクベツ</sup>ナリ。 夏<sup>ナツ</sup>ヲホケレバ。 畧<sup>リヤク</sup>シテシ

ルサズ凡<sup>ソボ</sup>夢<sup>ユメ</sup>ハアダナルモ

ノナレトモ。 或<sup>アルヒ</sup>ハ天人<sup>テンニン</sup>夢<sup>ユメ</sup>。 及善惡<sup>ヤクニク</sup>先<sup>マ</sup>徵<sup>シ</sup>夢<sup>ユメ</sup>ナドアレバ。 凶<sup>クワ</sup>ヲツグルナレバ。 善<sup>ゼン</sup>惡<sup>アク</sup>先<sup>マ</sup>徵<sup>シ</sup>夢<sup>ユメ</sup>トヲナジヤウナルコトナレド天人<sup>テンニン</sup>ノ告<sup>ツ</sup>ナラデ。 別<sup>ベツ</sup>因縁<sup>インエン</sup>アツク。 夢<sup>ユメ</sup>ノ時<sup>トキ</sup>ハ空<sup>クウ</sup>コレヲ禳<sup>ハラフ</sup>又ハ符<sup>フ</sup>鎮<sup>チン</sup>シテ可<sup>カ</sup>ナルベシ。 例<sup>レイ</sup>セバ。 國家<sup>コクカ</sup>マサニ乱<sup>ラン</sup>ントス

ル時<sup>トキ</sup>天<sup>テン</sup>變<sup>ベ</sup>地<sup>チ</sup>妖<sup>ヤウ</sup>ヲシメスニ。 國<sup>クニ</sup>君<sup>キミ</sup>心<sup>ココロ</sup>ヲ改<sup>カ</sup>メ。 政<sup>セイ</sup>ヲ正<sup>ただ</sup>シ。 且<sup>カ</sup>佛<sup>ブツ</sup>ニ祈<sup>イノ</sup>神<sup>カミ</sup>ヲ祭<sup>マツ</sup>テ懼<sup>オそ</sup>テヨク謹<sup>ツ</sup>トキハ。 世<sup>ヨ</sup>穩<sup>ウ</sup>ニ良<sup>リヤウ</sup>安<sup>アン</sup>ガゴトシ。 孫<sup>ソン</sup>思<sup>シ</sup>邈<sup>マク</sup>ガ西<sup>セイ</sup>山<sup>サン</sup>記<sup>キ</sup>ト云<sup>イフ</sup>書<sup>ショ</sup>ニ。 惡<sup>アク</sup>夢<sup>ユメ</sup>ナカラシムコトヲ思<sup>オモ</sup>ハ。 魚<sup>イサ</sup>鱉<sup>ベン</sup>ノ類<sup>ルイ</sup>ヲ。 食<sup>シ</sup>スルコトナカレ。 邪<sup>ジャ</sup>淫<sup>イン</sup>悖<sup>ハイ</sup>逆<sup>ギャク</sup>怪<sup>ケ</sup>異<sup>イ</sup>ノ事<sup>コト</sup>ヲ思<sup>オモ</sup>コトナカレ六<sup>ロク</sup>畜<sup>コク</sup>ヲ殺<sup>コロ</sup>コトナカレ九<sup>ク</sup>睡<sup>スイ</sup>トキニ必<sup>カナラ</sup>首<sup>カウ</sup>ヲ東<sup>トウ</sup>ニ向<sup>ムク</sup>モ

ツテ生氣<sup>セイキ</sup>ヲ受<sup>ウケ</sup>。 面<sup>オモテ</sup>宜<sup>ヨク</sup>外<sup>ソト</sup>ニムカフトキハスナハチ魂<sup>タマシ</sup>安<sup>ヤス</sup>ニシテ。 夢<sup>ユメ</sup>ナシト云<sup>イフ</sup>。 抑<sup>イツ</sup>カノ僧<sup>ソウ</sup>前<sup>ゼン</sup>ノ夜<sup>ヨ</sup>婆<sup>パ</sup>珊<sup>サン</sup>婆<sup>パ</sup>演<sup>エン</sup>底<sup>ヂ</sup>守<sup>シユ</sup>

夜<sup>ヨ</sup>神<sup>ジン</sup>トミテ次<sup>ツギ</sup>ノ且<sup>カ</sup>ニ圖<sup>ズ</sup>ザルニコレヲ感<sup>カ</sup>得<sup>トク</sup>スルコトハ蓋<sup>ケダシ</sup>コレ天人<sup>アラカシメシメ</sup>ノ預<sup>アラカシメシメ</sup>示<sup>シ</sup>セルナラン亦<sup>マタ</sup>是<sup>コト</sup>村<sup>ムラ</sup>良<sup>リヤウ</sup>牛<sup>ウシ</sup>馬<sup>ウマ</sup>ノ福<sup>フク</sup>幸<sup>コウ</sup>ナリ加<sup>カ</sup>之<sup>ノ</sup>カノ名<sup>ナ</sup>ヲ唱<sup>ナ</sup>テ惡<sup>アク</sup>夢<sup>ユメ</sup>ヲ辟<sup>サル</sup>ノ功<sup>コウ</sup>アリトスルトキハ謂<sup>イフ</sup>ベシ断<sup>タン</sup>惡<sup>アク</sup>修<sup>シュ</sup>善<sup>ゼン</sup>ノ鴻<sup>コウ</sup>名<sup>メイ</sup>ナリト。

①①21ウ

五 華嚴經ノ事 附タリ經文ヲ釋シ引重守夜神ヲ明コトハルモ  
度<sup>タク</sup>華嚴<sup>ケワエン</sup>ノ說<sup>セツ</sup>相<sup>サウ</sup>次<sup>ジ</sup>第<sup>ダイ</sup>ヲ且<sup>カ</sup>一途<sup>イツ</sup>ニヨツテイハ、文義<sup>モンギ</sup>綱目<sup>コウモク</sup>ニ法藏<sup>ホフサウ</sup>大師<sup>ホダイ</sup>菩提<sup>ホトク</sup>提<sup>テイ</sup>流<sup>リウ</sup>

支<sup>シ</sup>ノ說<sup>セツ</sup>ヲ引<sup>ヒ</sup>テ云<sup>イフ</sup>華嚴<sup>ケワエン</sup>八會<sup>ハクエ</sup>ノ中<sup>ナカ</sup>ニヨイテ前<sup>マ</sup>ノ五會<sup>ゴクエ</sup>ハ是<sup>コト</sup>佛<sup>ブツ</sup>成<sup>ジヤウ</sup>道<sup>ダウ</sup>ノ初<sup>シユ</sup>七日<sup>ニチ</sup>ノ說<sup>セツ</sup>ナリ第六會<sup>ダイロククエ</sup>ノ後<sup>ノチ</sup>ハ是<sup>コト</sup>第二七日<sup>ニジチチチ</sup>ノ說<sup>セツ</sup>ナリト云<sup>イフ</sup>ヲ法藏<sup>ホフサウ</sup>大師<sup>ホダイ</sup>コレヲ弁<sup>ベン</sup>ジテ云<sup>イフ</sup>初<sup>シユ</sup>七日<sup>ニチ</sup>ハ唯<sup>タカ</sup>思<sup>シ</sup>惟<sup>タカ</sup>ノミニシテ法<sup>ホフ</sup>ヲ說<sup>セツ</sup>玉<sup>タマ</sup>ハザレバ決<sup>ケツ</sup>シテコレ第二七日<sup>ニジチチチ</sup>ノ所<sup>ショ</sup>說<sup>セツ</sup>

ナリ。イハユルコノ經<sup>ケイ</sup>ハ海會<sup>カイエ</sup>ヲ集<sup>アツムル</sup>ノ盛<sup>セイ</sup>談<sup>タン</sup>。山王<sup>サンワウ</sup>ヲ照<sup>テラス</sup>ノ極<sup>ゴク</sup>說<sup>セツ</sup>理<sup>リ</sup>智<sup>チ</sup>宏<sup>カウ</sup>遠<sup>エン</sup>ニシテ法界<sup>ホフケイ</sup>ヲ尽<sup>ツクシ</sup>テ眞源<sup>シンゲン</sup>ニ巨<sup>キョウ</sup>浩<sup>カウ</sup>汙<sup>ウ</sup>タル微言<sup>ミクワフ</sup>虚空<sup>コウクウ</sup>ニ等<sup>ヒトシ</sup>シテ塵國<sup>チンコク</sup>ニ被<sup>カ</sup>シムト云<sup>イフ</sup>々

佛滅<sup>ブツメツ</sup>度<sup>タク</sup>六百年<sup>ロクニヤクニヒトトシ</sup>ノ後<sup>ノチ</sup>龍樹<sup>リウジュ</sup>ボサツ。自<sup>ミツ</sup>龍宮<sup>リウクウ</sup>ニユイテ。コノ大不思議<sup>ダイシユギ</sup>經<sup>ケイ</sup>ヲ見<sup>ミ</sup>玉<sup>タマ</sup>フニ上本<sup>ジョウホン</sup>ハ十三大千<sup>スサンチヤクニヒトトシ</sup>世界<sup>セカイ</sup>微塵<sup>ミクワフ</sup>數<sup>スウ</sup>ノ偈<sup>ゲ</sup>ト四天下<sup>シテウケン</sup>微塵<sup>ミクワフ</sup>數<sup>スウ</sup>ノ品<sup>ヒン</sup>アリ中本<sup>チュウホン</sup>ハ四十

九萬八千八百<sup>クウマンハチヒヤクハチヒトトシ</sup>ノ偈<sup>ゲ</sup>ト。一千二百<sup>イツニヒトトシ</sup>ノ品<sup>ヒン</sup>アリ下品<sup>ゲヒン</sup>八十萬<sup>ハチマン</sup>ノ偈<sup>ゲ</sup>ト。三十八品<sup>サンパチヒン</sup>アリ龍樹<sup>リウジュ</sup>并<sup>ヘイ</sup>。コノ下本<sup>ゲホン</sup>ヲ傳<sup>ツタ</sup>ヘテ天竺<sup>テンチク</sup>國<sup>クニ</sup>ニ歸<sup>カヘリ</sup>不思議<sup>シユギ</sup>論<sup>ロン</sup>ヲ造<sup>ツク</sup>玉<sup>タマ</sup>ヘリ。今<sup>イマ</sup>耶舍<sup>ヤセ</sup>ノ翻<sup>ホン</sup>ズルトコロノ十住<sup>ジュウヂヤウ</sup>毘婆沙<sup>ヒハサ</sup>論<sup>ロン</sup>ハカノ一品<sup>ヒン</sup>ナリトイヘリ然<sup>シカル</sup>ニ大唐<sup>ダイタウ</sup>ニワタルトコ

ロハ東晉<sup>トウシン</sup>ノ義熙<sup>ギキ</sup>年中<sup>ナカ</sup>ニ。安帝<sup>アンテイ</sup>十萬<sup>ジュウマン</sup>偈<sup>ゲ</sup>ノ中<sup>ナカ</sup>ニ三萬六千餘<sup>サンマンロクチユ</sup>偈<sup>ゲ</sup>ヲ持<sup>モチ</sup>來<sup>キ</sup>建<sup>ケン</sup>。業<sup>ゲ</sup>ノ謝<sup>シャ</sup>司空<sup>シヤウクウ</sup>寺<sup>ジ</sup>ニヨイテ翻<sup>ホン</sup>譯<sup>ヤク</sup>ス世<sup>セ</sup>ニ六十華嚴<sup>ロクジュウケワエン</sup>ト云<sup>イフ</sup>ハ是<sup>コト</sup>ナリ。ソノ後唐<sup>ノチタウ</sup>ノ則<sup>ソク</sup>天<sup>テン</sup>皇后<sup>クワフクウ</sup>于闐<sup>ユケン</sup>國<sup>クニ</sup>ノ三藏<sup>サンザウ</sup>實<sup>ジツ</sup>又<sup>マタ</sup>難陀<sup>ナンダ</sup>ヲ請<sup>シヤウ</sup>ジテ大德<sup>ダイタク</sup>十餘<sup>ジュ</sup>人<sup>ニヒト</sup>ト東都<sup>トウト</sup>ノ佛授<sup>ブツジュ</sup>記<sup>キ</sup>寺<sup>ジ</sup>ニヨイテ翻<sup>ホン</sup>譯<sup>ヤク</sup>スコレ乃<sup>ソノ</sup>世<sup>セ</sup>ニ稱<sup>ショウ</sup>ズルトコロノ八十華嚴<sup>ハチマンケワエン</sup>ナリ。コレモマタ梵<sup>ボン</sup>本<sup>ホン</sup>十萬

偈<sup>ゲ</sup>ノ中<sup>ナカ</sup>ノ四萬五千偈<sup>シヤクニヒトトシ</sup>ナリ抑<sup>ソメ</sup>具足<sup>グソク</sup>ノ下品<sup>ゲヒン</sup>ノ一十萬偈<sup>イツマン</sup>ノ經<sup>ケイ</sup>ハ西薩<sup>サイサツ</sup>遮<sup>シャ</sup>俱<sup>ク</sup>盤<sup>パン</sup>國<sup>クニ</sup>ノ山中<sup>サンチュウ</sup>ニアリト云<sup>イフ</sup>イマダ支那<sup>シナ</sup>國<sup>クニ</sup>ヘワタラズ。但<sup>タ</sup>今<sup>イマ</sup>ノ華嚴<sup>ケワエン</sup>下品<sup>ゲヒン</sup>ノ畧<sup>リヤク</sup>出<sup>シュツ</sup>ナリトイヘトモ八十卷<sup>ハチマンクワン</sup>ニシテ大<sup>ダイ</sup>ニ不足<sup>フソク</sup>スルトコロナキニ似<sup>ニ</sup>タリコレスナハチ廣

狹<sup>ケツ</sup>圓<sup>エン</sup>融<sup>ユウ</sup>シ。一多<sup>イツタ</sup>不<sup>フ</sup>二<sup>ニ</sup>ノ妙<sup>ウ</sup>ナリ法藏<sup>ホフサウ</sup>大師<sup>ホダイ</sup>曾<sup>ソウ</sup>童子<sup>トウジ</sup>タリシ時<sup>トキ</sup>華嚴<sup>ケワエン</sup>ヲ讀<sup>ドク</sup>誦<sup>シユ</sup>ス時<sup>トキ</sup>ニ總<sup>ソウ</sup>章<sup>チャウ</sup>元年<sup>ゴトシ</sup>ニ梵<sup>ボン</sup>僧<sup>ソウ</sup>來<sup>ライ</sup>朝<sup>チウ</sup>ス時<sup>トキ</sup>ノ衆<sup>シュウ</sup>梵<sup>ボン</sup>僧<sup>ソウ</sup>ニ曰<sup>イフ</sup>コノ童<sup>ドウ</sup>子<sup>ジ</sup>ハ華嚴<sup>ケワエン</sup>大經<sup>ダイケイ</sup>ヲ誦<sup>シユ</sup>ジ兼<sup>テ</sup>又<sup>マタ</sup>ソノ義<sup>ギ</sup>ヲ解<sup>ゲ</sup>スト三藏<sup>サンザウ</sup>驚<sup>ヨドロキ</sup>嘆<sup>トク</sup>ジテ云<sup>イフ</sup>華嚴<sup>ケワエン</sup>一乘<sup>イツジュウ</sup>ハコレ諸佛<sup>シュブツ</sup>ノ秘藏<sup>ヒザウ</sup>ニシテ遇<sup>アウ</sup>ベキコトカタシ何<sup>ナニ</sup>況<sup>ケ</sup>ソノ義<sup>ギ</sup>ニ通<sup>ツウ</sup>ズルヲヤ若<sup>ニハ</sup>人<sup>ニヒト</sup>アツテ華嚴<sup>ケワエン</sup>ノ淨行<sup>ジヤウギヤウ</sup>品<sup>ヒン</sup>ノミヲ誦<sup>シユ</sup>シ得<sup>ウル</sup>ダモ。其人<sup>シノヒト</sup>菩薩<sup>ボサツ</sup>ノ淨戒<sup>ジヤウゲイ</sup>具足<sup>グソク</sup>スルコトヲ得<sup>エ</sup>テ復<sup>マタ</sup>更<sup>サラ</sup>ニ苦薩<sup>クサツ</sup>戒<sup>ゲイ</sup>ヲ受<sup>ウケル</sup>ニヲヨバ

西域<sup>イキシキ</sup>傳<sup>デン</sup>記<sup>キ</sup>ノ中<sup>ナカ</sup>ニ。說<sup>トケル</sup>ハ。華嚴<sup>ケワエン</sup>經<sup>ケイ</sup>ヲ轉<sup>テン</sup>ズル人<sup>ニヒト</sup>ノ手<sup>テ</sup>ヲ洗<sup>アラ</sup>水<sup>ミヅ</sup>一

①①23オ

①①22ウ

ノ蟻ニシタ、リツク。其蟻命、終一切利天ニ生ストイヘリシカモ、况人アツテヨク受持スルコトヲ得ヲト云リ。具ニハ華嚴感應傳及持驗記ニミエタリ。中ニモ婆娑婆演底主夜神ハ第三十三ノ善知識ニシテ位歆喜地ニ配ス種々利益アル中ニ。正牛馬ノ疫ヲ。治スル文ナシトイヘトモソノ善財童子ニ示玉ヘル辞ノ中ニ善男子一切衆生

或ハ病ニ纏、或ハ老ニ侵レ、或ハ貧窮ニクルシミ、或ハ禍難ニ遭、或ハ王法ヲ犯テ刑ヲ受ベキニアタツテ依怙トコロナフシテ大怖畏ヲ生ズルヲ我ミナ救濟テ安穩ヲ得セシメント云々是スナハチ一切衆生トアレバ牛馬ハ、自ソノ中ニコモレリ、吁佛名ヲ唱井ノ号ヲ持シテ悲願ノ應現必ムナシカラザレトモ唯悲ラノハ衆生信心ノ薄コトヤ

〔六〕 金光明最勝王經ヲ改板行シテ筆星ヲ除事

往寛文甲辰ノ冬十一月ニ筆星東南ニイツルコトアリ。一句ヲ經テヤマズ、野星兼名、死ニ其形、如、筆、也、意、遂、又、言、歳、和、名、八、々、木、保、之、諸人ナニトナク物ヲ待ヤウニ云、旬テ枕ヲ泰山ノ安ニ置ズ、茲ニ神峯山ノ後、溪龍無菴主義空禪師ハ禪教兼擔人ナリ。特ニ最勝王經ヲ信誦セラレケルガカ、ル天変ナドモコノ經流布ノ威力ニ因ハ必消失テ國家益平安ナル趣ヲ往々説玉ヘルヲ見テコノ妖星ヲ除ガタメニ。聊發願シテ諸宗ノ知識乃至信士ニ募テ十卷ノ最勝王經ヲ梓行スソノ書寫ノ筆人ハ先初二慧極禪師香讚ヲ書シ、次ニ先ノ住妙心寺澤月禪師開經ノ偈ヲ書シテヨリ、已降ハ諸寺ノ名柄、及居士ノ管城ニ得タル人ニ。一卷一品下至、若干行ヲカ、シムソノ外題ハ。一卷一卷異ナリ、首ノ第一卷ハ照高院二品法親王第二卷ハ。妙法院二品法親王第三卷ハ聖護院三品法親王ト是ナリ。一〇二四ウ

ノ素誓実ニ靈墓丹府ヨリ出ト書シハ殆過譽ニアラザルカ衆力功ヲ成テ流布ニ及ヌカク心ヲ尽サレケルユヘニヤ天変モ頓テ収于戈ヲ動國モナクテ天下泰平ナリシモ。アニコレ最勝王經流布ノ功ニ非ヤ、慈雲ハ金光明護國儀ヲ鈔ス思合ベシ

〔七〕 最勝王經翻譯ノ次第

抑金光明經四卷アルハ曇無讖ノ譯ナリコレニハ智者大師ノ玄義文句卷六アリ玄義拾遺記卷文句ノ記卷二、順正記卷同、新記卷ナドアリテ、初智者大師ノコロハ先コノ四

卷ノ經ノミアマネク行シナリ、扱合部金光明經八卷コレハ隋ノ寶貴沙門天竺ノ沙門志德ニ對シテ合入スルナリ唐ノ世ニイタツテ、金光明最勝王經十卷コレハ三藏法師義淨ノ翻譯ニシテ十卷アリ世ニ最勝王經ト称スルハ是ナリ、即是金光明經ノ周備セルナリ。コノ經第四淨地陀羅尼品ノ中ニ佛曰善男子。若是經典ヲ聽聞スルコトヲ得モノモ皆阿耨多羅三菩提ヲ退セズトイヘリ何ニ況書寫シ受持シ讀誦シ。他ノタメニ敷演説ノゴトクニ修行センヤ。第八ノ卷乃至廣説リ要ヲ摘イハ、コノ經流布ノト

コノニハ梵天帝釈護世四王等ノ諸大善神コレヲ擁護シテ天變地妖一切ノ災難ヲ拂トノ誓約アリ。是ヲ以古ハ禁裏ニシテ。コノ會ヲ行ハル。釈書ノ資治表ニ。天武天皇即位五年ノ冬最勝王經仁王經ヲ諸勅ニ講ズトカケリ。蓋是コノ經ノ本朝諸國ニ流布スルノ始ナリ。コレヨリ前ニ、ステニ大藏ワタリタレバ、金光摩會及仁王經ナドノ世ニ行レシコトハ。コレヨリ前、明經最勝王經モ。サダメテソノ中ニアラン、維

中ニ講ストアリ。コレ又コノ經宮講ノ始ナリ。公夏根源ヲ按ニ。五月最勝講マツ兼日次ヲ定ラル。四箇ノ大寺ノ延慶園城僧ノ中ニ。舊古ノ聞アルヲ。擇定。證義。講師。聽衆ナドアリ。最勝王經ヲ清涼殿ニテ講ゼラ



佛神感應錄卷第十二目録 後集

一 最勝王經流水長者放生ノ事

二 阿彌陀經讀誦ノ功ニ由金殿ニ積經ヲユメミル事

三 附タリ唯一禪師緊那羅王ヲ夢ムル事

四 獨湛禪師行畧及本國ニテ識文ノ事

蓮社ノ七祖ノ事

五 附タリ雲棲大師ヲ以八祖トスル事

六 附タリ作福念佛流布ノ因縁ノ事

七 附タリ當麻ノ曼陀羅震且エ渡事

八 附タリ高泉禪師震且ニテ南良ノ大佛ヲ夢ムル事

九 本朝三曼陀羅ノ事

十 附タリ天竺三互通菩薩ノ曼陀羅ノ事

十一 附タリ大唐大曼陀羅及繡ノ淨土變流通ノ事

十二 附タリ智證大師請來ノ曼陀羅ノ事

十三 當麻ノ直西法師往生ノ事

佛神感應錄卷第十二 後集

一 最勝王經流水長者放生ノ事

二 最勝王經第九長者子流水品ヲ略シテ引ニ過去無量不可思議阿僧企耶劫

三 二審髻如來十号出世シ玉ヘリ。コノ佛滅後像法ノ中ニ王アリ天自在光ト

四 名ヅク。コノ王ノ國中ニ。一ノ長者アリ。名テ持水ト云。持水ニ一子ア

リ名テ流水ト云。顔容端正ニシテ人ノ觀ントネフトコロコトコロニ

水野生ト云大ナル池ヲ通時ニ。コノ池ノ中ニ衆ノ魚アリ時ニソノ水涸盡

ナントス。餘命イクバクモナシ。流水益悲心ヲ生ジテ水ヲソ、イテ。コ

レヲスクハントスルニ何トモスルコトナシ。即王ノトコロニ

イタツテ。二十ノ大象ヲカリ又酒家ニテ多ノ皮囊ヲカリ。近河ヨリ水ヲ

盛運テ。カノ池ニ洒湛ニ魚忽ニ宛轉渴死ノ難ヲ免タリ。因ナラニ

食ヲ與テ。咒願スラク願ハ來世ニ。マサニ法食ヲホドコシ充濟コト無邊

ナルベシト。次ニ又十二因縁の法ヲ説及審髻如來ノ名号ヲ唱テ。カノ魚

ニキカシムコレ箇ノ審髻如來ハ。ムカシ菩薩ノ行ヲ修シ玉ヒシ時。コノ誓

願ヲナシ玉ハク。十方界ノアラユル衆生。命ヲハルノ時ニヨイテ我名ヲ

キカンモノハ。命終ノ後ニ。三十三天ニ生ズルコトヲ得ントノ玉フガユ

ヘナリ。コノ願力功德ノ薰ヲ受ガユヘニ。十千ノ魚命終三十三天ニ生

ズ乃 廣説。サテソノ古ノ流水長者子ト云ハ釋迦如

來コレナリ。今又如來出世シ玉ヒテ。コノ最勝王經ヲ説玉フ時。ナヲ十千

ノ天子トナツテ三十三天ヨリ。コノ會上ニ天クダツテ菩提ノ記ヲ受コトヲ

得タリト云々。コノ因縁ニ慣近州琵琶湖ノ邊ニテ。アル有信ノ宅ニシテ。

僧ヲ請ジコノ經ヲ毎日一二卷ツ、訓讀セシメ聽聞供養スル間ニ。日々多

少ユエラハズ滿散ニイタルマデニ。一萬ノ放生ヲナスコトアリ。法主

即 經説ノゴトクニ十二因縁ノ妙文ヲ唱リ三明六通具八解脫ノ文ニイタルコトアリ又

審髻如來ノ名号ヲ稱ジ。或ハ土砂水又ハ大悲咒加持水ナド時ノ宜ニシタ

ガフ。又ハ華嚴普賢行願品ノ。我昔所造諸惡業ノ四句ノ懺悔ノ文唱シ

上ニ。三歸ヲ授

テ放長短時ノ宜ニシタガフ。スキテ長レバ魚ヨハリ。又ハ追コレ

結縁ナレバ。最隨喜讚嘆スベシ。コノユヘニ畧シテ記スト云又事文類聚

前集第二 翰府茗談ヲ引テ云陳堯咨江神ノ告ニヨツテ風波ノ難ヲノガル。江  
神ノ反報ニ金光明經一部ヲ賜ト乞。公喜ノ餘二人ヲシテ金光  
明經三部ヲモタシツカハシテ。三山ノ磯ニツイテ沉投ゼシムルニ。ソ  
ノ夜ユメミラク。本只一部ヲ望シニ。三部ヲ惠。後シバシバ俸祿ヲマス  
ベシト云テ再拜シテサリヌト。茲ニ知江海神モ亦コノ經ニ歸依スルコトヲ  
龍神及諸餘ノ神祇例シテ知ヘシ。又歸元直指ナドニノスルハ宋ノ紹興  
年中ノ事ナルニ淮陰ト云トコロノ民家ノ娘死シ

⑫02ウ

タリ。異國ノナラヒニテ。春寒食ノ節ニハ冬至ヨリ百五日ハカサウチ  
者ヲ祭事ナルニ。家貧ケレバ追善供養ヲモ。ナスコトアタハズ。ソノ母  
悲テ自髪ヲ截テ。錢ニ六百文ニ賣ヌ。コレニテ僧ヲ供養シテ佛事ヲナサ  
ント思トコロヘ。忽僧五人伴ダチテ門前ヲ通ヌ。老母走イデ、コレヲ  
請ジテ追善ノ事ヲタノムニ。衆僧互ニユヅリテ許諾セズ。良久シテ一  
僧肯テ入。乃隣家ニ金光明經一部アルヲ借テ。コレヲ讀誦シヌ。カ  
クテ齋供ヲ受。苦ニ回向シテサリキ。時ニ途中ニツイテ伴ノ四人ノ僧ニ  
アヘリ。幸ナリト歡ツ。酒家ニ伴行。カノ布施錢ヲモツテ各一盃  
ヲス、メントシテ。座ニツク頃ニ酒家ノ窓ノ外ヨリ謂ケルハ  
誦經ノ僧酒ヲノムコトナカレト僧ノ云サイヘルハ。是ナン人ゾ。時ニ泣  
悲聲アツテ云。我ハコレ今看經シ玉ヒシ家ノ亡女ナリ。我久冥路ニ  
淪。然ニ師向ニヨミ玉ヘル經ノ功德ニヨツテ罪ヲマヌカレテ超昇スルコ  
トヲ得タリ。シカルニ又酒ヲ飲齋ヲ破玉ハ。我モトノゴトクニ沉ヲチ  
ナント言ヲハツテ見エズナリヌ。衆僧驚ハチテ起去。ソノ後五人トモニ  
持齋シ參禪念佛シテ。ツイニ果證ヲ得タリ。コレコノ經タゞ世ノ災ヲ攘  
國ノ祥ヲ長ズルノミニアラズ。ソノ滅罪追薦ノ功速ナルコトカクノゴ  
トシ。コレ大乘經不思議ノ威力ナリ。具ニハ經ノ所説ノゴトシ吁コレ

吊得テ佳トイヘトモ頗用得コト惡シカレトモ即今非ヲ改善ニ遷ハ

⑫03ウ

是僧ノ僧タルユヘンナリ。後世我曹ノ龜鑑ノタメニコレヲシルスノミ。  
本朝元興寺ノ光勝コノ經ヲ讀誦シテ。自然ト稻ヲ生ゼシハ最奇異ナリ  
トイヘトモ。抑コレコノ經ノ緒餘ナリコレ釋書第十二ニイヨマン  
宗トスルトコロヲ問ナバ、其濼廣不可思議ナルコトヲ知ンカ

三 阿彌陀經讀誦ノ功ニ依金殿ニ積經ヲ夢事

黃檗獅子林獨湛禪師平生禪誦ノ外ニ阿彌陀經ヲ誦スルコト日課四十八  
卷ナリ。或日子細アツテ懈玉ヘリ。ソノ夜ノ夢ニ偶然トシテ玉樓金殿  
ニイタル。莊嚴甚麗シテ光彩眼ヲ眩。ソノ中ニ重々ノ棚アツテ  
悉ク經卷ヲ積カサネタリ。玉軸縹緗

⑫04オ

イツレノ經典ト云コトヲシラズ。カクテ一層樓ニノボルニ棚アレドモ經  
卷アルコトナシ。イカナルユヘニカト見メグル處ニ。傍ニ一僧アツテ立  
リ。師チカヅイテソノ故ヲ問。カノ僧對テ曰。カノ滿架堆經卷ハ方  
ニ今日本國裏ノ獨湛漸々讀誦セルトコロノ阿彌陀經ナリ。又コノ空棚ノ  
ミニシテ經卷ナキハ。他人強障ニヨツテ。今日スデニ懈怠ニ及コノユヘ  
ニカクノゴトシト。恍然トシテ夢サメヌ。師コレニ感激シソレヨリ增勵  
ンデ。日々怠玉ハズコノコトヲヒソカニ高弟自光等ニカタリ玉ヘリ。  
自光モ亦師ノ慈誨ヲ受。乃湛禪師亡母追薦ノタメニ自書玉ヘル。阿彌  
陀經ヲ請得テ十萬卷ヲ讀ト發願アリキ。聞説數年以前スデニ願ヲ畢ト。

⑫04ウ

獨湛和尚ノ行略ノ中ニ撰ズルトコロナリ。晃自光師命ヲ奉テ小阿彌陀經十萬  
部諷誦訖ト記セル是ナリ。獨湛和尚ハ是本邦黃檗第四代ノ住持後ニ獅子林

ニ退居セリ。ソノ機縁語句粗語録及法語二見タリコ、ニシカクテ寶永二年ノ秋ヨリ少煩シクテ明年正月二十六日辰ノ時示寂世壽七十九菩提位ニ居スルコト五十四夏遺偈ニ云我有一句。別于大眾。若問二何句。不説不説。按ズルニ鼓山ノ元賢ノ繼燈録ニノス天目中峰明本禪師ノ遺偈ニ云我有一句。分付大眾。更問如何。無二本可據。又杭州淨慈寺ノ無旨可授禪師。俄病アツテ端坐シテ西ニ向左右ニ謂曰。吾マサニ逝ナントス衆偈ヲ乞。師

ノ云吾宗本無二言説一ト云テ合掌シ佛号ヲ唱テ寂スト云々併テ味ベシ禪師在世ノ時四ヨリ來僧俗ノ正念往生ノ人又ハ臨終ニナニノ苦モナク安ニ終ヲ取モノアルヲ。話ヲ聞ハ乃侍者ニ命ジテコレヲシルシ認シメ。各一偈ヲソノ後ニ付シテモツテコレヲ筐ノ底ニ藏置玉ヒヌ。題シテ淨土善人詠トス。蓋是獨卷ノ善人詠ニ擬トナリ。雲棲禪師獨卷ノ重刊淨土善人詠ニ序ス又本朝ノ歴史僧傳ノ中ニヲイテ。粗往生安養ノ緇素ノコトニスグレタルヲ。採拾テ扶桑往生寄歸傳ト名ヅク。二卷アリ支那國ニ聯ントイマシコレキジヤウ。カテキク叡山寶幢院ノ釋ノ道乘ハ。ツネニ法華ヲ持スレトモ嘖多ヲモツテ金樓銀閣ノ經卷ノ須臾ノ

間ニ燒盡コトヲユメミ釋書十九又コノ湛禪師ハ一日ノ懈怠ニ由架上ノ空虛ナルヲミ玉ヘリ。其感報ノ空ザル。天人コレヲ示ナラン。並ニコレ一僧アツテ傍ニ立コレ其驗ナリ。因ニ記惟一禪師曾華嚴經八十一軸ヲ一字一拜ニ書ス。所謂文字ノ數十兆九萬五千四百八十八字ナレバ。其苦心篤志ノ勤タル以想ミツベシ。凡三年ヲ經テ功ヲ竣。修齋表懺シテ乃回向ヲ申黃檗開山隱元和尚ノ跋アリ云々初一年アマリアリテ。ステニ四十卷バカリ出來タルコト隱元禪師ソノ勞徳ヲイタハリテ。晝ハ血ヲ刺經ヲ寫ツ、又夜ハ別ニ又藥石ヲ食セシム。佛ノ法素非時食ヲイマシム。百丈禪師老病ノ夜坐ノ耐ガタカラシム。佛ノ時食セシム。然トモコレ佛ノ擬ニアラザラモツテ。コレヲ藥石トナツケテ非時食ノ名

ヲ忘コトハ。タトヘバ。藥ノ飢渴ノ病ヲ愈。シカルニ臘月二十三日ノ夜夢幻トモ分ガゴト飢渴ノ病ヲ愈。唯師晩間大眾ト共ニ喫スル藥石ノ外ニ。夜ニ入テ又重テヒトリス、ムルトナリ。ソノ童子手ニ飯饑隱和尚ノ記ニハカクアリ。持來紙ヲ水ニ涵テ。ソノ口ヲハル。夢ノ中ニトリノクレバ又封ズ。カクノゴトクスルコト三タビ。唯一師問汝ナン人ナレバ我口ヲ封ズルコトカクノゴトナ

ルヤ。童ノ云我ハ是監齋火部ノ童子。乃緊那羅王菩薩ナリ。厨ノ齋食ヲ監護ス故ニ監齋ト云。來テ。飯錢ヲ索ト。唯師ノ云飯錢イカバカリゾ。童子ノ云一小金ニ當トナリ。一步金カクテ夢サメタリ。ツクツクト思惟アルニ。我大眾ニ異ジテ獨夜飯ヲ喫スルユヘナルベシト黎明ニ自片金ヲ持シテヒソカニ庫司ニ債。アエテ夢中ノコトヲ言ズ。緊那羅王ヲ禮シテソノ誤ヲ懺悔ス。ソノ後因縁アツテ夢ノ事ヲアル僧ニカタル輾轉カタリツタヘテ老和尚ニ聞。和尚嘆ジテ曰常住僧物アニ私ニアタフベケンヤ。シカレバ

スナハチ老僧ニモ又私ニ許ノ咎アリト。乃監齋童子ノ像前ニシテ過ヲ謝シテ。又典座庫司飯頭等ニ舉似シテ云。凡常住ノ粥飯蔬菜等ノ物。一タミナ信施ヨリシテ來バ浪ニ用私ニ費ベカラズ。シカレトモ血ヲ刺經ヲ書スル功行。頗大ナレバ夜食ヲユルシ飢ヲ止ハ分外トスベカラザルニ。ナヲ飯錢ヲ索ノ事アルヲミルトキハ。況私ニ濫ズルノ極ナランモノ其譴アルコトナカラシヤト。又ムカシ智超法師ニ文殊菩薩童子ト化現シ來。テ手ノ穢ヲヨクアラフヘシト教玉フコトヲ引。凡手ヲアラフニハ。五タビホドアラ

⑩06ウ

⑩06ウ

⑩07オ

十ノ卷ニコレヲノス。聊茲ニイダシテ前ノ二條ノ潤色トスト云元和尚廣錄 全部三十卷アリ

三 獨湛禪師行畧ノ事 附タリ本國ニテノ撰文ノ事

獨湛禪師自撰ノ行由ヲ按ズルニ近藤氏悟石居士及兩序ノ執事ノ懇請ニヨツテ白姓ハ獨湛禪師自撰ノ行由ヲ按ズルニ近藤氏悟石居士及兩序ノ執事ノ懇請ニヨツテ白姓ハ獨湛禪師自撰ノ行由ヲ按ズルニ近藤氏悟石居士及兩序ノ執事ノ懇請ニヨツテ白姓ハ

末ニ狀元及第シ丞相ノ位トナルニイタル。宋亡時節義ヲ守テ死ス。子孫後二元明ニ仕テ世冠纓ナリ。師ノ父翊宣公某。母ハ黃氏。性至孝股

ノ肉ヲ割親ニ供養シ觀音薩埵ニ事テ甚謹メリ。獨湛禪師老後ニ皇明百孝傳ヲ作中ノ肉ヲ割親ニ供養シ觀音薩埵ニ事テ甚謹メリ。獨湛禪師老後ニ皇明百孝傳ヲ作中

死無常ノ心切ニシテ崇禎癸未ノ歲十六歲ニシテ積雲寺ニ投シテ出家

ス。乃天童山ノ密禪師ノ法嗣衣珠和尚乃剃髮ノ師ナリ。コレヨリ日ニ

トシテ一夜佛燈ニ相映ジテ其旨ヲ會ス。然レトモコレヲモツテ了事トセズ。

ツイニ黃檗山ニ入隱元和尙ニ謁シテ機緣相契。又福州ニ過鼓山ニ登永覺

禪師ニ參ズ。時ニ爲霖ノ道霈悅衆トナリ。覺師ト問答シテ省アルニ遇。

師益ツトメ勵テ留連スルコト十餘日。又鼓山ヲ下黃檗ニ歸再トトマ

ルコト四年日ニ禪堂ノ中ニアリ。一日天奇ノ行實ノ法嗣霽峰ノ瑄禪師ニ謁

廣錄ヲ閱シテ中心ニ感激スルコトアリ。甲午ノ夏隱老和尚ニ伴本朝ニ

渡。コレヨリ前師因ニ一ノ仙人ニ乩ス。人ハ高泉禪師ノ山堂清話ニノルトコロノ木岩洞ニ

句ヲ降示テ云日輝ニ東海上ニ月在初山一明ト初ソノ詩ノ意ヲ覺ス。

シカルニ老和尚日本ノ遊化アルニ及。トモニ東海萬里ノ波濤ヲ望凌

慧日相次扶桑ノ枝ニ出耀ニ至。一ノ句ノ意ヲ解シヌ。シカレトモイマ

ダ二ノ句ヲ會セズ。渡海十年ノ後甲辰ノ歲ニ至遠州近藤悟石居士ノ請

ニ應ジテ濱松ニ赴居士一禪刹ヲ建ントス。湛師ニ告テ領境ヲ巡視セシム。

ソノ心ニ愜地ヲ擇創ントナリ。周行シテ一ノ山林ニ至。溪石嶂樹甚

師ノ心ニ應ゼリ。因ソノ名ヲ問從モノ、曰初山ト。師愕然トシテ十有

餘年ノ礙膺失スルガゴトク第二句ノ識果シテ茲ニ在コトヲ信ズ行由

記ニ初近藤ノ宅内ニ寓シ。六月六日探隱シテ初山ニ

ニシテ。蓋又慈母孝信ノ餘贖力ヲ觀音ノ母甚觀音ヲ信敬ス。悟石居士ノ人潑大慈悲ニ歸ス

覺。燒了了大悲ノ手掌ク黒リ。夫人ヲドロキ悲喜交生ズト云々。湛和尚遠州ノ行アルハ多ハ夫

人ノス、メニ由トキ、シシカレバヌハナ慈母孝信ノ餘ノ慶ニシテ。觀音ノ冥應トイハハモ不可トセジ

四 蓮社ノ七祖ノ事 附タリ雲棲大師ヲ以テ八祖トスル事

按ズルニ四明石芝ノ沙門宗曉法師宗曉ハ天台ノ碩師ナリ。諸徳ノ嘉言善行ノ世ニノコラン

テ第八祖トス。雲棲歸依ノ居士周克復淨土晨鐘ヲ著ニ至云コトアリ。蓮宗ノ祖匡山ヨリ匡廬山ナリ永明ニヲヨブマデ七人海⑩10ノ15オ

内ノ論定一ニ協リ。師ヲモツテ八祖トストイヘリ博山ノ異禪師及隱元禪師共ニ贊ジテ大ニ嘆美ス博山老人ノ稱録及ウチンセイ雲棲大師ノ所撰ノ書多世ニ行ル。竹窓隨筆。山房夜話。緇門崇行錄。禪關策進。往生集。自知錄。楞嚴ノ模象記。彌陀經ノ疏鈔。梵網ノ發隱。僧訓日記。戒殺放生文。具戒便

蒙等ナリナヲコノホカ雲棲沙彌戒律儀ノルイ淨土會語ソノゼン其禪ニ通ジ教ヲ弘偏ニ諸惡莫作衆善奉行ヲ宗トシテ。分ニ戒律ヲ護持闡揚シ。專大乘界會ニシテ生即無生ノ理ヲ體得シ。遍淨業ヲ修シ廣ソノアメルトコロノ書及諸師ノ讚詞支那國裏ニハ。別ニ淨土宗ト云ヲ建

然セン。支那國裏ニハ。別ニ淨土宗ト云ヲ建⑩10ノ15ウコトナシ。故ニ諸宗ノ中ニユイテ。德行ノスグレテ人ヨク信順シ。又自淨土ノ行ヲ修シテ廣他ヲ勸導。知識ヲ擇淨土立教ノ祖トスルコ

トカクノゴトシ。淨祖トストイヘトモ。其本宗ヲ失スルニハアラズ若其例ニ準ヘバ。獨湛禪師ヲ雲棲補處ノ開士トシテ。淨土立教ノ第九祖ト稱

ジツベシ。湛師在世禪誦ノ暇ニ間或ハ蓮池大師ノ諸書ヲ閱シテ自得スルコトアリ。故ニ門人ニ對シテ云。我半ハ隱老和尚ノ鉛錘ヲ被。半ハ雲棲

禪師ノ餘芳ニ薰ズト門弟某等シバシバ親ノシカクミナラ加之ズ西齋ノ楚石老漢ニ迦洵シ言ヲキクコトカクノゴトシ萬善ノ延壽禪師ニ翱翔ス。禪淨兼修シテ機ニゾメテ善誘。或ハ言修

行ノ捷徑念佛ニ躰タルコトナシト。具ニハ語録ノゴトシ。⑩16オ遠近信慕シテ。ソノ化ヲ受モノ多。即今震旦國王大清康熙皇帝萬機ノイ

トマ。又佛法ヲ信敬ス。蓋コレ翹當來ヲ期スルノミニアラズ。又世ノ政ヲ裨補ノ理ニ達スレバナリ。旨アツテ作福念佛劈窠ノ圖ヲ四百餘州ニ印施ス中央ニ彌陀ノ三尊立像ヲエカキ。畫ノ左ノ方ニ善根福田ノナシヤウラシムル繪ノ右ニハ畢竟無常ヲマヌカレザレバ。貧福智愚スベテ念佛スベキコトヲス。メ。四圍ニ重ニ窠圖ヲナス。念佛千

聲スレバ。一團ヲ滅。周圍ノ團悉クツクハ傳テ本朝ニイタリ獨湛和尚ノ手ニ落。スナハチ歸消却スレバ。乃百萬返ヲ成ズ。コレヨリ重刻輾轉シテ弘往コト。大早ノ雲霓

依ノ居士ニ付與シ玉ヒヌ。コレヨリ重刻輾轉シテ弘往コト。大早ノ雲霓ヲ望ガゴトク流水ノ溪壑ニ歸スルガゴトシ。東關海西殆アマネカラン

トス。洛東獅谷ヨリ印シ出ダニサキゴロスデニ廿萬餘張ナリト聞シ。ソノ外ノ弘通知イクバクゾヤ。是和尙積功⑩16ウ

累徳ノ大因縁ニ由ニアラズンバ争カ無盡燈ノ點々熒々タルコトヨクカクノゴトク多ランヤ。又湛和尚曾和州當麻ノ曼陀羅ヲ拜閱シ且ソノ因縁ヲ聞

玉ヒテ。感嘆シ以甚希有ナリトス。因思イツクンゾ一幀ヲ摹去支那エ贈重刻輾轉シテカノ地ノ人ヲシテ不測ノ勝縁ヲ締シメント。因自

縁起ヲ改書シテ以時節ヲ待玉フニ。數十年ノ後嗣法ノ沙門悅峰禪師正ニ今一幅ヲ繕寫セシメ。和尚ノ縁起ヲ添テ遙ニ支那國有縁ノ居士楮山王ニ

贈。板ニ鏤テコレヲ支那ノ諸國ニ流布セシメ。并ニ浙杭東林ノ槃譚老師ニ請テ其事ヲ誌シム。コノ一幅ノ曼陀羅先雲棲大師ノ塔ノ前エ寄進スト云

コト湛和尚ノ跋ニ見ユ。コノ曼陀羅ヲ付刻傳流テ。以雲棲淨業ノ法門ヲ廣コト眞ノ盛事ナリト云コト槃

老師ノ序ニ見エタリ。按ズルニ中將姫ノ往生ハ人皇四十九代光仁帝ノ御宇寶龜六年乙卯三月十四日ナリ。元祿辛巳ノ年マデ。ステニ九百二十有七年ヲ歷テ。コノ曼陀羅始テ大唐ニワタリ雲棲大師ノ廂前ニ掛テ。後アマネク支那ノ郡國ニ弘コト。同氣相求同聲相應ズルノ理トハイヒ

ズ又或ハ夢ノ裏ニ樂邦ニ神遊シ。或ハ審蓮華方池ノ中ニ生ストユメムル等ノ。正シク行脚シ去時ノ祥瑞ハ行略等ニモ録出スレバコ、ニコレヲ畧ス。ソノ時璧山堂頭悦山禪師ノ輓偈ニ云禪淨雙修一念眞定知古佛再來人。東方緣畢西方去。端坐金蓮一朵新。又鎖龍ノ法語ニ悲智同運。禪淨雙修。卽ニ萬行一印。一心一印。一心一印。而彰萬行一如昔時之永明天如。如シ近代之雲棲聞谷爲人蔑以加一矣云云。餘ノ撰眞起龍進塔等ノ四佛事法語及諸禪師ノ總シテ隱元和尚ノ化ヲ日本ニ弘玉フコトモ乃宿願ニ答タリト云因緣及龍溪禪師ノ數回長途

ノ勞ヲ厭ズ東都ニ往來シテ荷擔護法シ。ツイニ佛日ノ光ヲ東桑ニ輝セル宿因カ、ルコトナンアリシナド語人アレド此ニコレヲモラシツ。曾大佛殿讚頌集ヲ見侍リシニ高泉和尚ノ序ニ云コトアリ。我支那ニ在シ時大佛ノ巍然トシテ曠野ノ中ニ立玉ヘルヲ夢ム。覺テ後怪思トイヘトモ其所以ヲ覺サズ。日本ニワタリ南都エヲモムキ大像ヲ瞻ニ及果然トシテ。コレコノ佛像ナルコトヲ知ト云々。是宿緣ノ催トコロ。暗ニ八識田中ニ萌ニアラズヤ。コ、ニライテ世ニ隱元和尚及龍溪禪師ノ宿因ヲ談ズルコトヲモ疑ズ。凡人ノ世ニ應ズルタレカ宿因前願ニ由ザラン。但知トシラザルトニアルノミ夫隱元和尚本朝ニワタツ

テ大獅子吼シ諸大龍象相蹴踏シテ妖邪逃避大道坦然タリ。是アニ宿緣大願力ニ乗ジ來ニアラズンバ。廣及長傳テ人ノ信服スルコトアニカクノゴトクナランヤ

五 本朝三曼陀羅ノ事 附タリ大唐諸曼陀羅ノ事

抑本朝ニ傳稱ズルトコロノ淨土三曼陀羅トハ。第一ニ南都元興寺ノ智光ノ曼陀羅ハ。詳ニ西譽上人ノ曼陀羅鈔袋中上人ノ白記等ニミエタリ。曼陀羅ノ大サ堅ハ五尺横ニ

尺三寸ナリ。佛菩薩ノ大委ハ鈔記ノゴトシ今ノ現ニ南都極樂寺ニアリ。智光ノ傳稱ニミエタリ。第二ニハ當麻ノ曼陀羅ハ。當麻ト云ハ元ハ役ノ小角ノ居ツケ。又ハ當麻王子ノ命スルコトコナレハ當麻寺トモイヘリ具ニ釋書ニアリ。當麻ニ神名帳ニハ、タイマトアリ。タエマト云ハ訓ニアラス。タウノ音ノ變ナリ。但源氏ニハタイマノマダラトアリ。和字古今通例全書ニコレヲ辨ゼリ。サテ曼陀羅ノ緣起ハ釋書及右ノ鈔記ニセテ。人ノアマネク知トコナレバ。シルスニ及ズ。幅ハ大サ方一丈五尺。一夜ニ生ズル節ナシ竹ヲ軸第三ニ超昇寺清海ノ曼陀羅ハ。院ノ時興禪師ノ心願ニテ。清水ノ觀音婦エカキアタヘ玉フトナリ。漸六百年ニ向スルコロ。天正年中兵亂ノタメニ寺院破壊シ。曼陀羅ハ洛陽聖光寺ニアリトイヘリ。コレ又緣起ハ鈔記ニクハシ。清海ノ傳ハ釋書ニアリ。曼陀羅ノコトハノセズ。超昇寺ノ扉ノ字釋書ニハ勝ノ字トナス。智光ノ曼陀羅ハ佛像アラアラトミエ玉ヒ。是ナリ共ニ觀音ノ化現シ清海ノ變相ハ細密ニ拜サセ玉フ。ソノ模寫ノ變相世間今往々ニコレアリ。テ織畫玉ヘル寔ニ希有ノ奇寶ナリ。又震旦ニ傳トコロハ。一ニハ五通菩薩ノ曼陀羅。又雞頭摩寺ノ曼陀羅トモ名ヅク。歷代三審感通錄ヲ按ズルニ唐ノ終南山道宣天竺ノ五通菩薩神通ニ乗ジテ。安樂國ニ至阿彌陀佛ニ啓シテ律師ノ撰述ナリ。娑婆ノ衆生淨土ニ生ゼンコトヲ願トモ。佛ノ形像ナシ願ハ照臨シ

玉ヘ。佛曰汝且前去。ツイデマサニ彼ニ現ズベシト。菩薩スナハチ還玉ヒヌ。スデニシテ彌陀及五十ノ菩薩各蓮華ニ坐シテ樹葉ノ間ニクタリ玉ヘリ。五通菩薩歡喜頂禮シテコレヲ模トメ玉ヒヌ。コノ曼陀羅月支國ニ流通ス。扱大唐エワタリシハ。漢ノ明帝ノ時摩騰ノ姪ノ沙門某持來シガ頓又攜カヘリヌ。ソノ後隋ノ文帝ノ時沙門明憲高齊ノ道長法師ヨリコレヲ傳テ世ニ流布スソノ後北齊ノ曹仲達ト云ル畫工コレヲ模寫シテ益ヒロマリヌ。法苑珠林ニ引トコロコレニ同。唐續高僧傳ニ江都ノ安樂寺ノ僧慧海齊州ノ僧道銓ヨリ傳ル處ノ彌陀ノ像ハ。コレモ五通ノ菩薩淨土ニテミタテマツレル尊容ヲ寫ナリト傳ニシルストコロハ。五通ノ菩薩直ニ淨土ニテ瞻禮シ玉ヘル彌陀ノ尊容ナリ。シカレバ支那ニ傳ル五通ノ傳來ニ。二通アルトミエタリ。コノ彌陀一尊ノ方ハ。僧ノ志叶コレヲツタヘテ西洲ノ居士一尊ノ濟ニ付ス。ツイニコノ像ヲ貝多葉ニ圖シテ。吳國ニヒロム。コノ像相好コトマニニハ善導所覽ノ曼陀羅コレハ瑞應刪傳ノ中ニ沙門文詒ト少康ト心ヲ善導禪師ノ傳ヲノスルニ云。唐朝善導禪師ハ姓ハ朱泗州ノ人ナリ。少シテ出家ス。時ニ西方ノ變相ヲミテ

①18ウ ①19ウ ①20ウ

嘆ジテ曰。イカンシテカマサニ質ヲ蓮臺ニ托シテ神ヲ淨土ニ棲シムベシト云。コノ善導大師ノ見玉ヘル曼陀羅ト云ハイツレノ曼陀羅ゾヤ。當曼白記ニハ。コノ五通ノ曼陀羅ノ模ナルベシト云。或人ノ云。コノ善導所覽ノ曼陀羅本朝ニモ彌陀經ヲウツスコト十萬卷。淨土ノ變相ヲ畫コト三百餘トイヘリシカレバ本朝ニウタリシト云ハコノ善導大師ノ畫玉ヘル中ナルベシ。所覽ノ曼陀羅ト云ルハ不審イカニ縋白往生傳ニモ洛東ノ寺院ニコレアルコトヲイヘリ。又馮翊郡ノ秦夫人ソノ亡夫湖州ノ刺史章江ノタメニ金銀ノ泥ヲ以妙手ヲシテ淨土ノ變相

⑩20ウ

ヲ畫シメ翰林學士李太白ヲシテ序及贊ヲ作シム。ソノ叙ノ詞ニ云ルハ八法功德ノ波青蓮ノ池ヲ動七審香華ノ光黃金ノ地ニ映ズト云。又弘農郡ノ君ノ楊氏ノ女ヲ蓮華性ト名ヅク弘願ヲ發淨財ヲ捨シテ西方阿彌陀佛ノ像及淨土ノ聖衆ヲ繡ニシテ楊夫人ノ追善トナシ太子ノ賓客白樂天コレガ贊詞加タリコレヲ又夫京兆ノ杜氏ノ女ソノ先妣盧夫人ノタメニ。阿彌陀佛一軀ヲ繡ニス。白樂天又序贊ヲ撰ズソノ贊詞ノ略ニ云善念一念千念相屬繡始一縷萬縷相續云。下ノ六句コレヲ答スソノホカクキヨイマツカラクワンキヤウ。ヒツノイニ。云並ニ樂邦文類ニノス。其外白居易又自大阿彌陀經觀經ニ依淨土ノ變相ヲナシ及大智律師ノ觀經ノ圖姑蘇ノ逸上人ノ九品ノ相ノゴ

⑩21オ

トキ世變相ニ乏ズ。其源五通菩薩ニ濫觴シテ。感通最不思議ナレバ。其流ノ末ニ至モ清淨殊勝ニシテ信敬スベキニ堪タレトモコレ併西天ノコトナリ。ソノ後震且ニテ出來ハ。ミナコレ人師英哲ノ經ニ由テ考アラハシタレハコレモ亦正健ナレバ。アリガタク尊ベシトイエトモシカレトモ本朝ノ三曼陀羅ノ並ニ淨土補處ノ菩薩。直ニ化現シ自織畫玉ヘルガ神妙ナルニシカザルヘシ。中ニヲイテ當麻ノ曼陀羅緣厚化廣コト蓋所以アルカ獨湛禪師コノ曼陀羅ヲ種々ニ讚嘆シテ云畫士數人二年ノ工ヲ費トコロニ佛自造玉フニ頃刻ニシテ成子丑寅ノ二時マコトフカ思議ノ事ナリ東方ノ衆生福ノ厚コトヲ知ヘシ。西土ノ俗筆大ニ倅カラズト誠

⑩21ウ

ニシカルカナ又唐ノ則天皇后淨土ノ變相四百幅ヲ繡ニシテ流布シ玉フ則天皇后ハ唐ノ太宗ノ時ノ太子後ニ高宗ノ皇后トナルツイニ天下ニ王タリ大カタ善導ソノ後唐ノ宣宗ノ大師同時ナリ。善導ハ唐ノ高宗永隆二年三月十四日ニ昇進ス具ニハ本傳ノゴトシ朝ニ圓珍入唐。乃是三井寺ノ智證大師アリキテウ。温州内道場ヲ供奉徳園座主ヨリ婺州ノ詹景全ガ船ニ屬シテ則天皇后刺繡ノ曼陀羅一幅ヲ中ナリ長五尺ヲリエ。山淨土變一鋪長一丈五。又付法藏ノ上ニ釋迦迦葉ヨリ下慧能ニイタルマデノ畫像二幀子。及紺瑠璃ノ壺ニ佛舍利ヲ盛タルヲ贈ルコレ初時ステニ付與シヌレ下經典ステニ二千。智證大師コレヲ拜受シテ。年々舍利會ノ前ニ卷ニ及ヌレバ留テ後ノ便ヲ待ト云。智證大師コレヲ拜受シテ。年々舍利會ノ前ニ出カケテ諸人ヲシテ拜瞻セシムト云云。コノ事釋書ニコレヲノセス。起居郎善ノ清行ノ撰ズル清行ノ跋アリ。清行ハ佐

⑩22オ

世同ジク智證大師ニ親シクノチ。其後三井寺度々ノ炎燒亂亡アレバ今ハサダメテ烏有トナラン惜カナ。抑則天皇后ハ其行跡ニイタツテハ。君子往々ニコレヲ議ストイヘトモ。佛門ニヲイテハ結緣護法少ズ。今コノ四百幅ノ曼陀羅ヲ繡ニシ玉ヘルコト謂ベシ最勝緣ナリト。或ノ云皇后昔蕪若蘭ガ回文錦字璇璣ノ圖ヲミテ。甚妙絶ナリト稱ジテ自其記ヲ製ス。ソノ記劉越石ガアツムルトコロノ古今文致ニコト偶。コノ女工ノ精緻ナルヲ感ズルニアタツテ幸ニ善導曼陀羅ヲ弘行ヲ見聞シテツイニコレヲ繡ニスルノ趣向イデクルナラン。ナヲ雁ノ沙ニ印スルヲミテ文字ヲツクリ。蜘蛛ノ柳ノ葉ニ乗ヲミテ船ヲ製スルガ

⑩22ウ

ゴトシト理或ハ然シ。コレヨリ唐ノ世ニハ刺繡ノ佛像多カリシトソ白樂天ガ夫範。金設。レ。繪。不。若。刺。繡。紋。之。精。勤。也。云。蓮華性女ノ繡佛及又杜子美ガ歌中。二。藕。晉。長。齋。繡。佛。ノ。前。ト。云。ガ。ゴ。ト。キ。想。見。ベ。シ。本。朝。ニ至。人皇三十七代孝德天皇ノ御宇白雉元年ニ丈六ノ佛像ヲ繡ニシ。翌年慶讚ノ齋會アリ。是蓋法道仙人ノスメナラン本朝繡佛ノ始ナリコノ時唐ノ高宗永徽元年ナリ。カンガヘリトソノ後廢帝天皇ノ御宇天平審字四年ニ藤原ノ惠美ノ押勝興福寺ノ内ニ

⑩22ウ

一宇觀音堂ヲ建立シ。西ノ壁ニハ補陀落山ヲ繡ニシ東ノ壁ニ極樂界ノ相ヲ繡ニス精緻妙麗ナリトイヘリ。コレヨリ中二年アツテ。天平寶字七年六月二十三

①23オ

日ニ當麻ノ曼陀羅成按スルニ惠美ノ押勝ハ右僕射豐成ノ弟ニシテ中將姫ノ叔父ナリ親屬ノ中ニシカモ先ダツテコノコトアルハ勝妙希代ナル眞ノ佛國ノ相露出トノ前表ナラン。智度論ニ諸ノ佛法ノ興ルコトハ事ナキニ興ニアラス。少ノ因縁ニヨツテ興ニアラス。タトヘバ須彌山王ノ無事及小因縁ニテハ動ザルガコトシト。コレモ亦例シテミルベシ。スデニ千載ニ向トシテ其事ナヲ新ナルガゴトクニ世ノ信慕轉遍利益彌熾ニ

シテ都法然上人ノ寫玉ヒ善慧坊ノ寫ヒヨリコノカタ四分一八分一等天下ニ遍シ溢テ支那國ニ流布スルヲヤ。コレコノ廣長ノ大佛事アニ深因縁ナカラシヤ。但佛法ノ興コトハヒトリ順縁ノミニアラズ逆モ亦爾

①23ウ

韋提化夫人ノ逆子ノ愁ニ逢玉ヒ。中將姫ノ繼母ノ讒ニ罹ガゴトキ。コレ厭離ノ心切ナルユヘニ。欣求ノ思深ユヘンナリ。所謂逆即是順ノ法門

ナレバ。是モ亦弄引ナル歟。或人ノ云中將姫ニ繼母アリト云コト世ニ見エス。實母ハ百能ト云乃藥ヲ共ニ續日本紀ニ見エタリ。近代異澤氏ガアツメニ本朝列女傳ニモ百能ヲノセテ云。天平十九年中將姫ヲ産シ。大臣覺シテ後志ヲモルコト久ト云云。ユヘニシカキコノ權龍子ガ俗説辨ニ續日本紀ヲ引テ繼母アリテ讒スト云ハ虛説ナルコトヲ辨ゼリ。最日本紀ニヨレバ異議ヲ存スベキニアラザレトモ。縁起ノ表モ又傳ルトコトアルナラン。年代久コトナレバ。カタムキニモ定カガシ。舍人親王ノ神代ノ卷ニモ幾説ヲモイダシテ一定シ玉ハズ。コレ古ヲ並存スルユヘンナリ。コノ例和漢ニヲホシ。試ニ一ヲアゲン。唐ノ世ニ僧ノ無本還俗シテ賈島トナツク。或ハ子アリトス曹松ガ賈島ヲ吊スル詩ヲ引テ云。稚子哭勝猿トコレ子アルノ證ナリ。又コナントスルモノハ姚合ガ賈島ヲ哭スル詩ヲ引テ云。無子過生。云々曹松姚合トモニ賈島同時ノ人ニシテ一ハ子アリトシ一ハナシトス。ハタツレニカ。從。宋ノ方處谷。瀛率隨ヲムニ第四十九ノ卷ニコノ兩人ノ詩ヲナラベノセテ。輒辨定ズ。コレ古人ノ疑ヲカイテ言。慎ユヘンカ蓋豐成公相勝ノ變ニヨツテ太宰府ニウツサル。コノ時ニアツテ中將姫正シク十一歳ナリ。豊成久カラズシテ救ニ逢テ歸。ソノ往來流離ノ間百能ヲヒ存トイヘトモ。別ニ愛姫アツテコレヲ護スルヲ繼母ニナラヘ言カ但縁起ニ三歳ニシテ母ヲ失トアレハトカク計ガタ

①24オ

因 當麻ノ直西往生ノ事

往延寶ノコロ大和當麻寺ノホトリニ直西トイヘル法師ナン栖ケリ本ハ尾州ノナニガシトヤランニテ弓馬ノ道ニモ。僞ケルトゾイカナル縁ニカアリケン發心シテ當麻寺ノ内護念院ニテ剃髮シ只單ニ念佛シテ往生ヲノミ願里人ノ憐ニテ年月ヲ送ケルガイカガ思ケン寺ノ上ナル尼ト山上ノ窟ノ中ニ閉コモリ鐘ウチナラシ。高聲念佛シテイタリケリ。始ハ時々郷ニイデ、身命ヲ支シガ後ニハ里ニモイデズ又鐘ウチナラセバ道行人ノタツネ來テ問慰カムツカシキトテ音モセズ。ヒソカニタゞ命ヲ限ニ念佛シケリ情

①24ウ

里人食物ナドシタ、メテ來。兔角ス、ムレトモ喫トモセズ。後ニハ其モ喧トテ。山人ヲタノミツ、岩窟ノアタリニ垣結廻テ念佛ノ外ハ呼ドモ應タニセズ。カクテ廿二日程歷ケルカ。イマダ念佛ノ聲モ斷スゾアリケリ。年ゴロノ同行垣ヲ踰テ入ケルニ語ケルハ。我日頃ノ願成就シ又昨ノク

レ方ニ。西ノ山ノ端ニ正シク三尊ノ來迎ヲ拜侍キ。今日ヨリコソ娑婆ノ妄緣盡テ淨土ノ金蓮ニ昇コト彌陀超世ノ悲願アリガタク歡喜身ニアマリヌトテ感涙ヲ浮ケルガ須臾アリテ岩穴ヨリ匍イデ、前ニアリケル清水ニテ洗浴シサテ窟ニ歸入。念佛合掌シテ睡カゴトクニ息斷ニケリ。ソノ時尼上山ノ嶺ニ紫雲。靄ケルトソ同行ノ僧モ坐ニ隨喜ノ

①25オ

ナンダヲナカシツ、。イソギ里人ヲ語テヨキニ取ヲサメケリ。遠近コレヲ聞ツタヘ眞箇ノ厭欣ノ行者ナリト讚嘆シ合。抑コノ窟ト申ハ相傳ソノカミ役ノ行者ノ穿玉ヘルナリト。ソノ後中將姫コ、ニ住シテ日想觀ヲナシ玉ヘルトナン。過シ元祿ノ春友ト當麻ニ趣シコロコノ洞ニ立ヨリテミルニ洞ノ北ノ方ノ岩ノ面ニ三尊ノ像ヲ雕付中ニハ小塔ヲ設。乃岩屋越ト名ル坂道ヨリ北ノ方僅ニ數十歩ハカリナレバ鐘ノ音ナト臚ケナラズ聞ユ

ル程ナリ。時シモ彌生ノ始ニテ洞ノ前ナル一株ノ桃花爛熳トヒラケタリ。  
暫トモニヤスラヒテ古ノコトヲ思ニ。中將姫ノ花ノ顔モ假ノ色ニコ  
ソトウチ捨玉フゾ。誠ニタフトク賢ワザナレ。イハユル人面不レ知何  
トコロニカ  
處

⑫25ウ

去桃花依レ舊咲ニ春風一ト作シモ時ト云處ト云思アハセテソバロニ哀  
ヲ催ヌ。今ハ素淨土ノ聖衆トナリテ常恒不變ノ身ヲ得玉ハンナレハ。  
桃花コソ却アダナレカノ常ナラヌ世ニヨソヘテゾミルト花山ノ院ノ詠サ  
セ玉フコトナド語イダシツ。固ニ高モ卑モ遁得ヌハ無常ナリト知ナガ  
ラ。我人切ナル心モ起ザルニカヘスガヘス法響直西ノ心ノ中想像テ感慚  
シテ過ヌ

佛神感應錄卷第十二

⑫26オ

⑫裏表紙見返欠

⑫裏表紙

(あべ みか 歴史文化学科)

(おおくぼ みれい 横浜女子短期大学図書館)

(つかもと あゆみ 生活機構研究科生活文化研究専攻修了生)

(せきぐち しずお 本学名誉教授)